

【周主忠妾】この語は、『史記』蘇秦列伝及び

### 周主忠妾

【嚴妾】ロウセツ 侍女。下文の嚴婢・嚴、同じ。嚴・女部一〇画  
【淫】こは姦通する、の意。  
【封】下文に封酒とあり、瓶を密封することから、酒をしこむこと。

【勞】勞をねぎらうこと。  
【計念】はかりおもふに。不忠まてかかる。  
【酒與】イウロ 賄賂すること。〔補注〕百疑終不定也。  
【陽僵覆酒】〔補注〕陽、與・伴同。僵、ヤウ倒  
【答】チ むち。こは動詞、むちうつ。  
【既已】その場はおさまった。已止

【幾死】死にそうな目に会う。幾は、ほとんど。  
【殺主】〔補注〕主謂主母也。〔國語〕注云、大夫之殺御主、從夫稱也。

【吾死則死耳】私が死ぬのは、たかが下女の死だけのこと。耳は限定の助字。  
【辭】一辭 辭退する。

【愈】エ・心部九画 愈に通じ、イヌ  
【主聞之】〔校注〕太平御覽、主下有「父字、無聞之」字。

【名無細而不聞】よい評判というものは、どんなに些細なことであっても世間に聞えわたるものだ、の意。

【詩云】詩經大雅・抑篇、「言として嘯ひざる無く、徳として報ひざる無し」

【序】秩序。侍女として守るべき本分。

【淫婢】インヘキ 淫二邪

【除賊】悪いたくらみを除きふせぐ、の意。

【蒙】モウ・御部一〇画 二受

周主忠妾者、周大夫妻之媵妾也。大夫號主父。自衛仕於周、二年且歸。其妻淫於鄰人。恐主父覺、其淫者愛之。妻曰、無憂也。吾爲毒酒、封以待之矣。三日主父至。其妻曰、吾爲子勞、封酒相待。使媵婢取酒而進之。媵婢心知其毒酒也。計念、進之、則殺主父不義。言之、又殺主母不忠。猶與。因陽僵覆酒。主父怒而答之。既已。妻恐媵婢言之、因以他過答、欲殺之。媵婢將死、終不言。主父弟聞其事、具以告主父。主父驚、乃免媵婢、而答殺其妻。使人陰問媵婢曰、汝知其事、何以不言、而反幾死乎。媵婢曰、殺主以自生、又有辱主之名。吾死則死耳。豈言之哉。主父高其義、貴其意、將納以爲妻。媵婢辭曰、主辱而死、而妾獨生、是無禮也。代主之處、是逆禮也。無禮逆禮、有一猶愈。今盡有之、難以生矣。欲自殺。主聞之、乃厚幣而嫁之。四鄰爭娶之。君子謂、忠妾爲仁厚。夫名無細而不聞、行無隱而不彰。詩云、無言不醜、無徳不報。此之謂也。

頌曰、周主忠妾、慈惠有序。主妻淫僻、藥酒毒主。使妾奉進、僵以除賊。忠全其主、終蒙其福。